

29年7月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成29年 7月1日～ 29年7月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は4社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/7月	8月	9月
入荷動向	国産材	△ 12.5	△ 25.0	△ 12.5
	外材	△ 16.7	0.0	16.7
在庫動向	国産材	△ 16.7	0.0	0.0
	外材	△ 16.7	0.0	0.0

・国産材ラミナの入荷動向は3カ月連続減少。外材は7月の減少から8月は横ばい、9月は増加に。

・在庫は国産材、外材ともに7月の減少から8月、9月は横ばいに。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/7月	8月	9月
国産材	0.0	0.0	12.5
欧州材	50.0	33.3	33.3
その他	75.0	50.0	50.0

・ラミナの購入価格動向は、国産材は保合い。欧州材及びその他は強含み

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・国産材の入荷動向は、先月同様、全力で集荷を掛けているが数量は増えず横ばい状況。国内マーケット好調により、国産材製材工場はラミナよりも付加価値の高い通常の製材品の製材に忙しい模様。外材は、当社においては「米ヒバ」材ということになる。しばらく入荷タイトな状況が続いたが、北米での米ヒバ原木の出材には目途が立ち、8月以降増量が見込まれる。ただし、価格勝負で米ヒバ原木を抑えたため、入荷コストは大幅に上昇した。

・在庫動向は、7月までは「横ばい」という名の「ほぼ在庫ゼロ」状態。自社製材分も外部購入分も、製材(入荷)→乾燥完了次第即製品となり、ヒノキラミナ在庫は超低位であった。ただし、来月8月以降、当社新工場の製材機械稼働率上昇により、若干ヒノキラミナの製材が増量できたため、その分工場内ヒノキラミナ在庫は増える見込み。外材は、当社の場合は「米ヒバ」。入荷タイトな状況続き、7月までは在庫減少するが8月からは北米からの入荷が増えるため、それに伴って弊社在庫も増える予定。その後も当面一定量の入荷が見込まれる

(ラミナ価格動向)

・国産材のラミナの購入価格は、当社の場合ヒノキ、値段が上がったから数量が集まるものでもなく、横ばい推移が続く。欧州材は、当社では取扱いはないが、一般的な同業他社の情報によれば、為替円安化と欧州サプライヤーからのユーロ価格も値上がり傾向となっており、確実にラミナ価格は上がる。米ヒバは、米国住宅着工好調により米スギの代替材として米国向けに米ヒバが買われているため、昨秋から今春にかけて産地バンクーバー周辺の天候が不順で、秋～春の出材が少なかったため、米ヒバ丸太が不足、よって、原木不足→ラミナ原料不足→値段大高騰となる。

29年7月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/7月	8月	9月
生産動向	国産材	0.0	0.0	12.5
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	33.3	0.0	16.7
	米マツ集成平角	16.7	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	0.0	16.7	33.3
	WW集成管柱	0.0	0.0	16.7
	RW集成平角	16.7	△ 16.7	0.0
	米マツ集成平角	16.7	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・構造用集成材の生産動向は、国産材は7月、8月の横ばいから9月は増加に。WW集成管柱は3カ月連続横ばい推移。RW集成平角は7月の増加から8月は横ばい、9月は再び増加に。米マツ集成平角は7月の増加から8月、9月は横ばいに。

・出荷動向は、国産材は7月の横ばいから8月、9月は増加に。WW集成管柱は7月、8月の横ばいから9月は増加に。RW集成平角は7月の増加から8月は減少、9月は横ばいに。米マツ集成平角は7月の増加から8月、9月は横ばいに。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/7月	8月	9月
スギ集成管柱	12.5	12.5	12.5
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	16.7	25.0	25.0
WW集成管柱	16.7	33.3	16.7
RW集成平角	50.0	33.3	33.3
米マツ集成平角	0.0	0.0	16.7
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	50.0	50.0	50.0
カラマツ集成平角	—	—	—

・構造用集成材の出荷価格動向は、国産材はスギ集成管柱及びカラマツ集成土台角とも数量不足とのことから強含み。ヒノキ集成柱及び集成土台角は横ばい推移。

・外材は総じて強含み。

モニターからのコメント

・国産材構造用集成材の荷動き動向は、当社においては「ヒノキ集成材」となる。引き合い好調で全力生産継続中。当社新工場の一部設備が使用できるようになり、生産は1割ほど増加。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、こちらも比較的受注好調で、通常以上の順調な生産販売が続いている。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、受注極めて好調で、国内工場各社はフル生産の状態とのこと。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない。そもそも米マツ集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心。限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。米ヒバ集成材も依然引き合い多く、納期に追われる状況。全力での生産継続が続く。当社新工場の設備が一部使用できるようになり、若干の増産に転じつつある。

・国産材構造用集成材の出荷動向は、引き合いは依然好調、製品が出来上がり次第即出荷の状況が続く。当社新工場の設備が一部使用できるようになり、若干の出荷増に転じつつある。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、こちらも比較的受注好調で、通常以上の順調な生産が続いている。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、受注極めて好調とのことで、出荷も好調、一部納期を要するとの話も聞く。秋の需要期に向けてタイト感が一層強まるものと予想される。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、出荷動向増減の話はあまり聞かれない。そもそも米マツ集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。米ヒバ集成土台は、引き合い好調。製品が出来次第即出荷の状況が続き、納期をお待たせすケースが多発しており大変心苦しい。弊社の新工場の一部設備を使用出来るようになり、若干の増産が出来るといふことになりつつある。

(構造用集成材の出荷価格動向)

・スギ集成管柱は、当社生産品目ではないが、数量不足、強含み傾向と聞く。欧州WW集成管柱の入荷が増えず、強含み傾向なことに連動している模様。ヒノキ集成柱及び修正土台とも、当社では強い引き合いの下、全力生産が続く、値上げしたいところだが、当社新工場での増産及び拡販を見込み、戦略的に価格維持している。カラマツ集成土台は、当社生産品目ではないが、こちらも絶対量不足気味で受注に対して供給が間に合っていないと聞く。WW集成管柱は、当社では取扱いがないが、一般的な同業他社の情報によれば、為替円安化や欧州サプライヤーからの純粋なラミナ価格値上がりにより、製品価格も上げざるを得ない見込み。RW集成平角は、ラミナコスト上昇、製品の引き合い極めて強いということで、値上がり傾向。8月には製品価格の一つの目安である60,000円/m³台が定着するとの話。米マツ集成平角は、当社生産品目ではなく、マーケットでも限られた需要しかないと考えられ、全体への影響は微小と考えられる。米ヒバ土台角は、原料価格の上昇も急激で、製品の値上げが追い付いていない。今後もお客様各社には値上げの依頼をしていく予定